

# 2021-2023 年度中期経営計画

2021 年度 実績報告書

学校法人共愛学園

企画調査室

## 目次

1. 実績報告書の概要.....	2
2. こども園 2021 年度実績報告書.....	4
3. 小学校 2021 年度実績報告書 .....	5
4. 中学校 2021 年度実績報告書 .....	6
5. 高等学校 2021 年度実績報告書.....	7
6. 短期大学部 2021 年度実績報告書 .....	9
7. 大学 2021 年度実績報告書.....	10
8. 法人事務局 2021 年度実績報告書.....	12

## 1. 実績報告書の概要

### 1-1. はじめに

2020 年 4 月私学法改正により、大学を設置する学校法人は中期計画（以下、「中計」という。）の策定が義務化されている。本学園は、いち早く 2009 年度より中計を取り入れ、①教育研究・教育・保育計画、②学生・生徒・園児・児童募集計画、③学納金計画、④施設・設備・修繕計画、⑤人事計画、⑥その他の 6 項目で本学園が進むべき道を示してきた。

本学園の中計は PDCA サイクルに基づき、2018-2020 年度中計では形式自体を見直し、より明確な目標、より具体的な計画が策定できるように改善したが各項目の目標数を予め定めていなかったため行動目標数が多くなり、力の分散により未達成の目標も多く生じていた。2021 年度-2023 年度中計においては、前期中計の課題を踏まえ、①「教育内容」、②「教育組織」、③「教育環境」、④「教育運営」の 4 つの領域に絞り、それぞれの領域で事業の達成目標（KGI）を 2 つまでの設定とした。

新たに改善された 2021-2023 年度中計は 2021 年度が初年度にあたり、各部門における 1 年間の実績を報告する。

### 1-2. 実績報告書の評価基準について

実績報告書は公開を前提としているため、事業の達成目標（KGI）の評価を重視する。ただし KGI は 3 年間の積み上げ式、すなわち、3 年間で 100%の達成を目指すため、各年度の実績については各年度の 1 年間で 100%の達成を目指す成果指標（KPI）で評価する。また、評価方法は各部門よりエビデンスに基づいて記入された実績報告シートを企画調査室が検証し、以下の評価基準にて 6 段階で示すことにする。49.9%以下は本学園の達成基準を下回ったと評価する。また、未着手または目標の変更の場合は、F 評価とする。

また、評価は今後の各部門における業務運営の改善に資するよう、簡潔な表現で示すとともに、必要に応じて理由等を付すことを基本とする。また、特筆すべき点や今後の取組に係る課題がある場合には、簡潔な文章による意見を付すことにする。

### 1-2-1. 6段階評価の評価基準

評価	KPI 達成率	報告書での表現方法
S	100.0%以上	目標を達成した。
A	80.0～99.9%	ほぼ目標を達成した。
B	60.0～79.9%	概ね目標を達成した。
C	50.0～59.9%	半分程度は目標を達成した。
D	49.9%以下	着手したが、目標達成基準を下回った。
F	—	未着手または目標の変更

### 1-3. 成果指標（KPI）の評価方法について

各部門が設定した事業達成目標（KGI）の評価は、3カ年計画の各成果指標（KPI）の達成率に基づき評価する。成果指標の達成率は、各KGIに設定された行動計画の達成率に基づき評価している。すなわち、事業達成目標を達成させるために細分化された各行動計画の達成率が、全体評価の基準となる。

各行動計画には成果指標（KPI）が設定されており、各部門の担当者は、行動計画の年度実績チェックシートに成果指標の達成率とエビデンスを記入し、本学園企画調査室に提出する。企画調査室は、各部門の担当者が記入した自己評価の妥当性を検証し、報告書を作成する。作成した報告書は、内部監査室に提出され、企画調査室の評価結果を検証したうえで、内部監査委員会に諮り、最終的な評価を確定させている。

### 1-4. 実績報告書で使用する用語説明

中計はこれまで学校法人では馴染の無かった経営的な専門用語が使用されているため、まずは本中計で定義されている用語を確認することにより、さらに本報告書の理解を深められるよう以下に説明を付す。

#### ① ビジョン

ビジョンは、各部門のミッションを踏まえ、方向性・目指すべき姿を簡潔に示したメッセージである。3年後にどんな学校になってほしいか、どんなことを達成したいかなどの将来像が示されている。

#### ② 領域

領域は、各部門が運営・業務を行う上でのトップテーマであり、活動領域を示している。

#### ③ 事業達成目標（KGI）

事業を達成させるため具体的な目標、すなわちKGI（Key Goal Indicator）である。KGIは重要目標達成指標であり、各部門が達成すべき目標を定量的、数値的に表している。

#### ④ 成果指標（KPI）

成果指標（KPI）は、行動計画の達成度を評価するための指標であり、本学園ではKPIの評価が事業達成目標（KGI）の評価につながっている。

## 2. こども園 2021 年度実績報告書

### 2-1. こども園総評

2021-2023 年度こども園の中計ビジョンは、「互いに愛し合い、主体的な保育を確立する」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

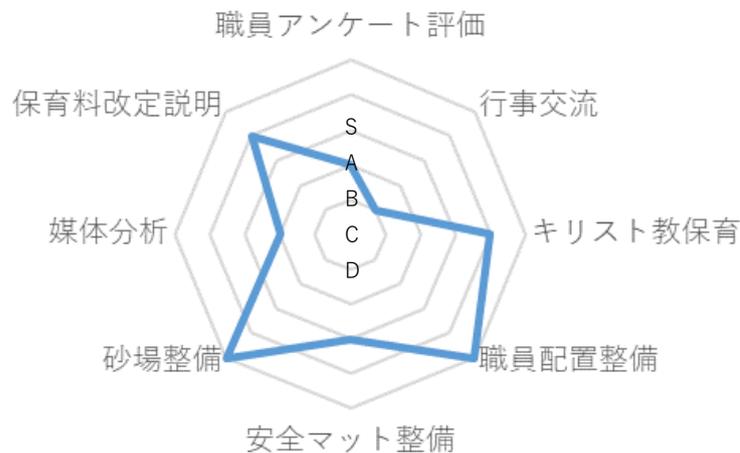
2021 年度中計における KPI の実績は、教育組織の領域は順調に目標を達成したが、教育内容、教育環境、教育運営の各領域は未達成であった。

2021 年度は、職員の適材適所の配置整備に向けて、役割の明確化を園内で確認し、課題解決に向けた土台作りに取り組んだことは評価できる。職員満足度向上のため、次年度も継続して取り組むことが求められる。また、未満児用砂場整備に向けて設計計画を確定したり、遊具下の安全マットを設置したりするなど、教育環境に力を入れたことも評価できる。

評価の低かった KPI を見ると、園小交流行事がコロナ感染拡大防止により、実施することが困難であった。オンラインを活用した交流行事を検討するなど、コロナ禍であっても取り組める交流行事の積極的な模索が求められる。

こども園はゼロ歳児より園児を受け入れ、また、地域性も高いため、総合学園である本学園の第一印象を決める重要な役割を担う部門である。言い換えれば、これまで本学園と関係の無かった人たちが、はじめて共愛学園と関係が持てる重要な部門である。すなわち、良い印象を与えられれば、多くの園では不可能である系列の小学校につなぐこともでき、将来的には中高大につなげられる要因にもなる。反対に悪い印象を与えてしまえば、本学園との関係を遠ざけてしまう要因にもなる。こども園と学童クラブは他部門と比較すると地域性が強く、また、全員が強く志望して入園した母集団ではないため、良い印象を与えていくことは通常よりも一段と難しくなる。したがって、中計で戦略的な計画を策定し、職員が体系的に行動できる体制を継続して整えることが望ましい。

### こども園 K P I 評価



### 3. 小学校 2021 年度実績報告書

#### 3-1. 小学校総評

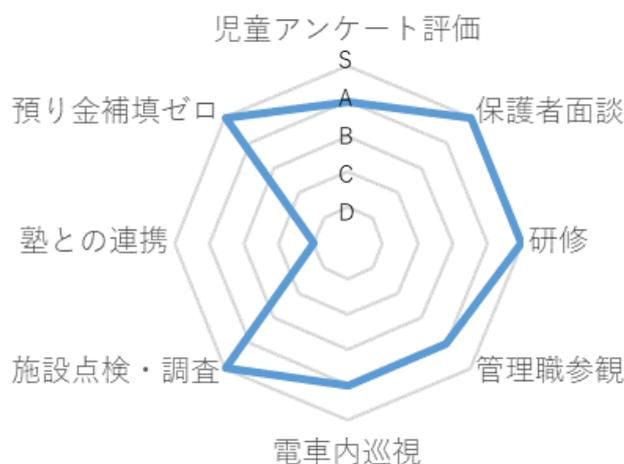
2021-2023 年度小学校の中計ビジョンは、「共愛学園小学校の教育が知れ渡り、誰もが入学したくなる小学校を目指す」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

2021 年度中計における KPI の実績は、教育内容、教育組織、教育環境の各領域は順調に達成したが、教育運営の領域は未達成であった。

2021 年度は、6 年生までが揃う完成年度にあたり、1 期生が卒業し共愛中学へ接続する重要な年度であった。小学校では、内部進学を希望する児童と保護者を対象に目標に掲げた面談を実施して、希望者全員が特別推薦で共愛中に進学することができたことは評価できる。しかし、外部進学者が 2 割程度生じたことから、次年度は接続を強化させる取り組みを検討することが求められる。また、推薦基準に基づいて指導してきたが、それが中学校での学習や生活にどの程度影響するものなのか、2022 年度の中学 1 年生の状況を見て判断することが、今後の課題である。収支安定化を図る事業目標では、教材費の預り金支出について、事務用の帳簿作成により厳格管理した結果、教材費負担の学校会計支出は 0 円を達成できたことは評価できる。しかし、教育活動における経費節減には限界もあるため、収入増に繋がる外郭団体からの寄付等が少しでも多く得られるよう工夫するなどが求められる。

評価の低かった KPI を見ると、広報活動方法の再検討において、「共愛学園小学校受験」と銘打つ幼児教室が少なく、ターゲット校が見つからず、結果として 2 校の PR にとどまっている。共愛小は英語を売りにしているので、幼児向け英会話教室などにも範囲を広げ PR 活動を拡大することが求められる。

#### 小学校 K P I 評価



## 4. 中学校 2021 年度実績報告書

### 4-1. 中学校校総評

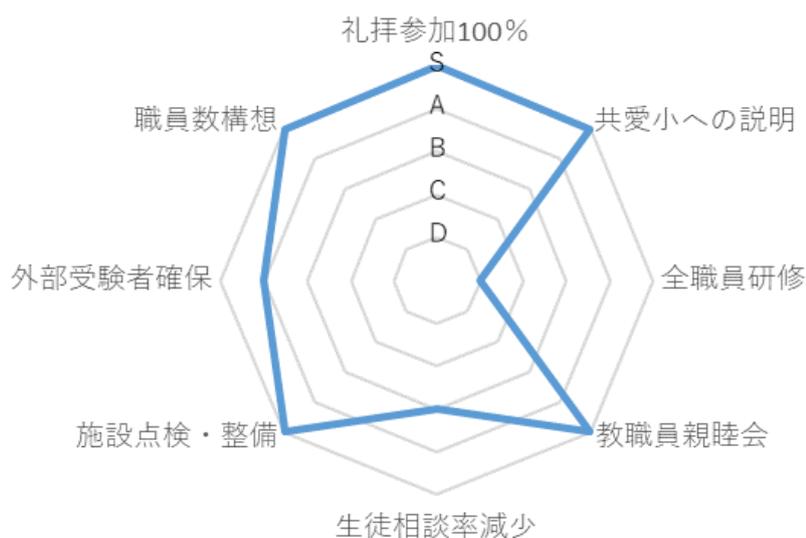
2021-2023 年度中学校の中計ビジョンは、「共愛小学校の完成年度を迎え内部生と外部生の融合による新たな共愛中学校へと発展させる」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

2021 年度中計の KPI の実績は、教育内容、教育運営の各領域はほぼ順調に達成したが、教育組織、教育環境の各領域は未達成の KPI があった。

2021 年度は共愛小からの 1 期生を接続させる重要な年であったが、共愛小 6 年在籍 52 名中、内部進学した生徒は 42 名であった。目標は 95%以上 49 名の進学であり、進学率は 85.7%となる。今後、小学校への働きかけの回数を増やなど中高のアピールが必要である。また、共愛小の内部進学及び中高一貫につながる先取教育、理数教育の強化等を勘案した次年度以降のカリキュラムを提示することができたことも評価できる。なお、12 歳人口の動向や将来的には高校との定員の関係性も視野に入れながら入学定員も継続して検討していくことが必要である。放課後学習などを委託する KSC (Kyoai Study Center) の導入ができ、働き方改革の一助となったことは評価できる。

また、評価が低かった事業としては、教職員研修の実施が挙げられる。夏期研修は対面式で行うことができたが、その後の世相推移もあり、全体での研修実施には困難さを伴った。しかし、コロナ禍の状況下において、最大限の配慮をしつつの全体研修を実施できたことは評価できる。なお、回数頻度は低かったが、実質的な手ごたえを得られたことは大きな成果であることを付記しておく。

### 中学校 K P I 評価



## 5. 高等学校 2021 年度実績報告書

### 5-1. 高等学校総評

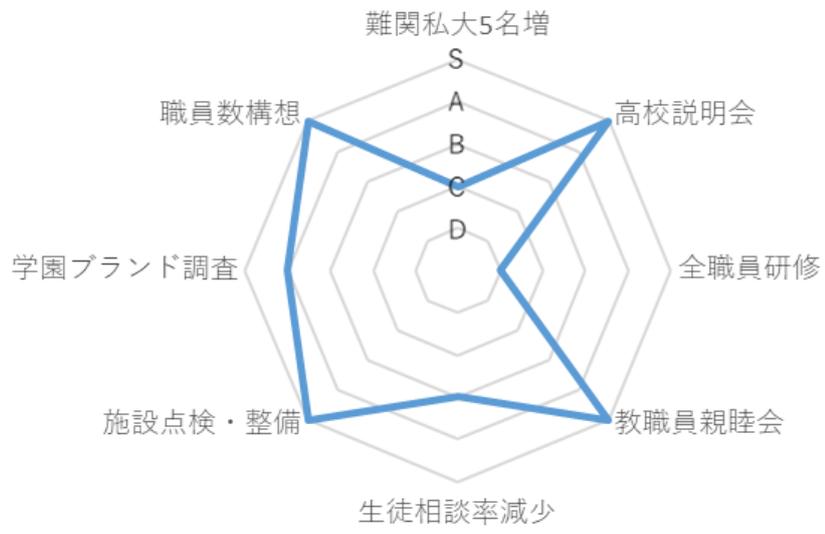
2021-2023 年度高等学校（以下、「高校」という。）の中計ビジョンは、「普通科・英語科という課程の枠を超えた新たな教育の質の転換を推し進め、高い進路達成を実現する」であり、ビジョンに基づき4つの領域、8項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には3カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2021 年度中計の KPI の実績は、教育運営の領域は順調に推移しているが、教育内容、教育組織、教育環境の各領域は未達成の KPI がある。

2021 年度は中学校から高校への内部進学率を 95%以上にする目標は、普通科特進コース、英語科特進コース、英語科進学コースの研修旅行報告を礼拝時にアッセンブリーで行い、中学生にも各コースの代表的な行事と魅力を発信した。また、各コース主任から中3生徒・保護者対象にコース説明を実施したり、高校教頭による高校の説明および入試説明も実施したりできた。さらには、中2の生徒に対しては、各コースの生徒がコースの特色や魅力を説明する機会を持った。コロナ禍においても、ICT 技術を併用し KPI の達成に向けた取組は評価できる。新カリキュラムへの改革については、学習指導要領の改訂による次年度以降のカリキュラムを提示することができた。将来的には2科4コースを維持する方向である。なお、15歳人口の動向と中学校の定員との関係性も視野に入れながら検討を続けるが、当面は入学定員もできる限り現状を維持する方向で取り組む必要がある。放課後学習などを委託する KSC（Kyoai Study Center）の導入ができ、働き方改革の一助となっていることは評価できる。しかし、働き方改革も含め土曜日授業や授業時間数の見直しも検討する必要がある。また、残業減を実現し、人件費を抑えることでワークシェアリングによる任用替えを円滑に行えるよう検討する必要がある。

KPI の達成率があまり高くなかった事業として、難関私立大への進学者増が挙げられる。目標の合格実績が出せない理由として、推薦以外の受験を望まない者が多く、生徒や保護者の選択肢が狭い傾向にあることが要因の一つと考えられる。教員の進路指導のあり方についても研修などの機会を設ける必要がある。その一方、旧帝大東北大への合格、難関国公立大の筑波大、ブロック大学である金沢大などに合格者を輩出することができ、また、群馬大をはじめとする地域国公立大や高知大、長崎大など、諦めずに挑戦し、第一志望校に合格を出せたことは評価できる。次年度も有名大学や国公立大への進学実績の向上が求められる。

# 高等学校 K P I 評価



## 6. 短期大学部 2021 年度実績報告書

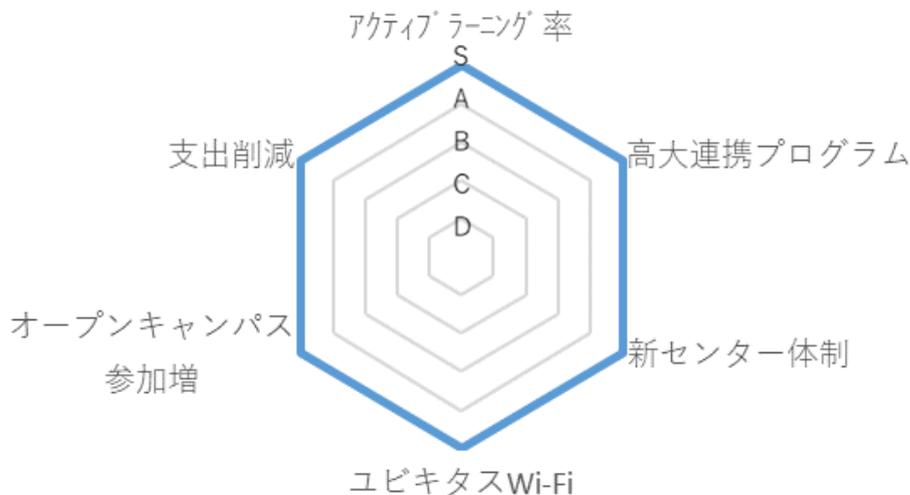
### 6-1. 短期大学部総評

2021-2023 年度の短期大学部中計ビジョンは、「群馬県内で最も選ばれる短大となる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、6 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

2021 年度中計の KPI の実績は、どの領域の KPI も目標を達成し、KGI は順調に推移していると評価できる。但し、2021 年度の KGI は 6 項目であり、他部門と比較して項目が少ないため、今後、短期大学部では中計の新たな KGI を追加設定できるよう検討し、教育組織と教育環境の各領域強化を図ることが望ましい。

2021 年度は、明和学園短期大学から移管されて共愛学園前橋国際大学短期大学部としての初年度であり、募集戦略による入学定員の確保並びに財務体質の強化が求められてきた。入学定員の充足は、コロナ禍のため思うようなオープンキャンパス運営ができなかったが、2 度のオンライン実施など工夫を凝らしながら予定数のオープンキャンパスを実施し、延べ 163 名の参加者 (YouTube LIVE 配信時の視聴者除) を確保できたことは評価できる。しかし、依然として入学者は充足できておらず、定員確保に向けた募集戦略の継続検討が必要である。また、財務体質の強化では、支出の補正予算 79,522 千円に対して 68,718 千円であり、執行率は 86.4 % である。今後見込まれる未払金 4,000 千円を含めても約 92% と予想されるなど、厳格に予算執行管理を行ったため、補正予算に比べ執行額 (支出) を抑えたことは評価できる。しかし、収支の改善は収入の確保 (入学者・収容定員の確保) が不可欠であるため、次年度は入学定員確保を引き続き進めるとともに、他の収入源 (寄付や施設利用料) の確保もあわせて行うことが求められる。

### 短期大学部 K P I 評価



## 7. 大学 2021 年度実績報告書

### 7-1. 大学総評

2021-2023 年度の大学中計ビジョンは、「最先端の学修と人材育成を確立させるカリキュラムを柱に、教育の質保証システム先進大学となる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、16 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

2021 年度中計の KPI の実績は、教育環境の領域は比較的順調に達成したが、教育内容、教育組織、教育運営の各領域には未達成の KPI があった。大学は、他部門の 2 倍である 16 項目の KGI が設定されているため、力の分散が生じ、教職員に計画を浸透させることが難しく、細かさゆえの柔軟性や共有性の課題も見え隠れしている。なお、進捗シートの記入は、行動計画ごとに管理者と担当者が配置され、学長をリーダーとして内部統制が機能していることが伺える。

2021 年度は、内部質保証体制の整備では、①内部質保証点検・評価一覧表作成、②内部監査委員会の実施 (2021 年 11 月 24 日実施)、③外部アドバイザー委員会の実施 (2022 年 1 月 25 日実施)、④スタッフ会議で事務局が報告スライドを用いて説明 (2022 年 2 月 16 日実施) など内部質保証の評価に向けて、体制や、規程・方針等の策定を計画どおり取り組むことができたことは評価できる。内部質保証は大学業界でのトレンドであり、次年度も本学独自の内部質保証に向けてブラッシュアップを図っていくことで、教育と組織の質を向上させることが求められる。また、学修成果の可視化では、これまで APWG という臨時組織で運用されてきたが、教育実践部門、IR 部門という教学マネジメント組織内に位置付けられたことは評価できる。新カリキュラム (2023 年度) 開始までに、新組織として改善に向けた方針を決定していく。また、1 年次に学びの履歴書として KCG+S を作成する課題 (キャリア I) を達成できた (単位取得) 割合は 94%であった。今後、更に質の高い学びの履歴書づくりにつながるよう、方策を継続して検討することが大切である。しかし、2021 年度卒業時の自己評価の書込み件数は、59.3%であり、約 4 割の学生が学びの成長を確認せず卒業している実態を改善する必要があることは付記する。

KPI の評価があまり高くなかった事業として、リカレント教育プログラムは、新型コロナ感染防止のため、リカレントスクール (MBS) のプレスクールが再三に亘って延長となった。次年度は、本スクールの着実な開催が望まれる。社会人の再教育の取組みは、本学の強みを生かして地域社会に貢献する絶好の機会となるため、事業を推進することが求められる。

# 大学KPI評価



## 8. 法人事務局 2021 年度実績報告書

### 8-1. 法人事務局総評

2021-2023 年度の法人事務局中計ビジョンは、「今、共愛（共生）の使命（Mission）に生きる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2021 年度中計の KPI の実績は、教育組織、教育環境の領域は順調に目標を達成しているが、教育内容、教育運営の各領域には未達成の KPI がある。

2021 年度は、内部監査室の体制を整備し、全部門の内部監査を実施したことは評価できる。内部監査は教育業界でのトレンドであり、次年度も本学独自の内部監査に向けて改善を図り、組織と運営の質を向上させることが求められる。各部門の施設設備の充実では、大学 1 号館改修推進・設備更新によるオンライン英会話教室（One on One English）やオンライン配信用スタジオなどの先進的な学修環境整備、短大アクティブラーニングエリアの設置による快適な学修環境の提供、中高学習センター設置のための計画策定、小学校周辺駐車場の大規模整備、こども園遊具下の安全マット設置など、各部門で教育環境の充実・整備が図られている。今後は、さらに教育の質を高める環境づくりを継続して検討することが重要である。

KPI の評価が高くなかった事業として、地域等への貢献のための社会人向けリカレント教育プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため、リカレントスクール（MBS）のプレスクールが再三に亘って延期となった。次年度は、本スクールの着実な開催が望まれる。社会人の再教育の取組は、本学園の強みを生かして地域社会に貢献する絶好の機会となるため、事業を推進する必要がある。全部門の財政健全化の事業については、経常収支差額において短期大学部の黒字化を図るため、短期大学部では定員確保に向けた募集戦略の継続が喫緊の課題である。小学校では長期的には減価償却額の推移による黒字化は見込めるものの、早期の黒字化施策として、奨学金制度や放課後児童クラブの委託料等を見直したり、給食委託費の学校持ち出し費用削減などをしたり、支出削減に努める必要がある。

### 法人事務局 K P I 評価

